



▲千畑小学校で行われた野菜パーティー

お互いの地域の文化に触れ合って 千畑小学校・御田小学校交流事業

7月19日から7月21日にかけて、東京都港区立御田小学校の児童31名とその保護者らが美郷町を訪れ、千畑小学校の児童とその家族との交流を深めました。両校の交流は旧千屋小学校時代から続いており、今年で38回目となります。

清水巡りや川遊び、花火、バーベキューなどをして美郷の夏を楽しんだ両校の児童らは、最終日には再び千畑小学校に集まり「野菜パーティー」を開催。キュウリやトマトなどの新鮮な美郷町産の野菜を堪能しました。また、今年はJA秋田おぼこの職員を講師に迎えた「ジャンボのり巻きづくり」にも挑戦し、参加者全員で長さ20mののり巻きを完成させました。

8月8日から8月10日には、千畑小学校の児童15名と保護者らが東京都港区を訪問し、東京都内の散策やホームステイ先の家族との交流を通じて、都市体験を行いました。

首都圏在住者が町の農業を体験しました ふる郷体験ツアー

8月2日から4日にかけて、東京都大田区民14名が美郷町を訪れ、農作業や伝統行事等への参加を通じて地域住民との交流を深めました。このツアーは、都会に暮らす方々のふる郷づくりの推進や美郷町産の農産物の販路拡大などを目的に行っており、今年で3回目となります。

町内の農家民宿でトマトやナス、ジャガイモなどの収穫作業を体験した参加者たちは、最終日にフードコーディネーターの山下由美さん（東高方町）を講師に迎えて料理教室を行いました。参加者たちは町内産農作物の美味しさに驚きながら、できあがった料理を終始笑顔で頬張っていました。

大田区から参加した山本彰子さんは「5月に大田区で開催された『ごはんの教室』で美郷町産のごはんの味に感動して、今回のツアーの参加を決めた。子どもに自然豊かな環境で農業を体験させることができてよかった」と話してくれました。

美郷の水を感じるお祭り 清水まつり樽みこし・舟ッコ流し

8月2日に清水まつりの「樽みこし」が行われました。沿道から浴びせられる水に負けないよう、担ぎ手たちは勇ましい掛け声を上げるなど、大小6基のみこしが町内を練り歩きました。

8月3日には、御伊勢堂川で六郷地区の七夕行事「舟ッコ流し」が行われました。子どもたちは「ヤンセ、セヤホ、オセドノ舟ッコ」と元気な掛け声を出しながら、電飾や笹竹など施した舟ッコとともに練り廻りました。



高峰～さらなる高みへ～ 平成26年度美郷町成人式

8月15日に美郷町公民館で平成26年度美郷町成人式が行われ、平成5年4月2日から平成6年4月1日生まれの新成人262名の門出を祝いました。

式典では、3地区を代表して高橋奨之さん、加藤喜之さん、傳野あゆみさんに松田町長から成人証書が授与され、成人を代表して鈴木果歩さんが「故郷への感謝と誇りを胸に、強い意志を持って精進していくことを誓います」と謝辞を述べました。

式典後には、アクア美郷ジャズセッションのメンバー3名が駆け付け、音楽を通じて新成人の門出を祝いました。その後は、成人式実行委員会が制作した「高峰～さらなる高みへ～」と題した記念映像を放映。中学校時代の恩師からのお祝いの言葉や、新成人たちの職場や学校での様子などが紹介されると、会場内は大いに盛り上がっていました。



▲謝辞を述べる鈴木果歩さん



第8回 町議会 臨時会



平成26年第8回町議会臨時会が8月4日に開かれました。審議された議案は次のとおりです。

可決された案件

■工事請負契約の一部変更について

工法の変更により、千畑中央地区簡易水道浄水施設築造工事請負契約の契約金額を増額することについて議決を求め、可決されました。

■平成26年度美郷町一般会計補正予算第5号

美郷町消防団の秋田県消防操法大会出場に伴う経費、日本スポーツマスターズ視察経費および六郷東根運動広場の松くい虫処理等に係る経費の追加など、歳入歳出予算にそれぞれ167万2千円を追加し、総額を113億3251万1千円としました。

■平成26年度美郷町簡易水道事業特別会計補正予算第3号

健康長寿とセルフケア

美郷町長 松田知己



町議会臨時会で行政報告を行う松田町長

風

の」とのこと。この言葉には二つ意味が込められているように思いますが、「仕事を詰め込み過ぎるな、体あつての仕事だもの」「仕事を割引できないなら、それに耐えられる体に自己管理していかないと」ということだろうと思います。

巷では健康食品が人気を呼び、テレビでは健康番組の視聴率が高いとのこと。これは健康の自己管理意識が高い証しである一方、商業者にとっては商売が成り立つ状況、つまり意識は高いものの実効ある実践はまだまだで、すぎる何かを提供すれば商売になるという状態を表しているように思います。改めて、健康管理は高い意識のもと、実効ある自らの実践が伴ってはじめて意味を為すということ、自戒

を込めて確認したいと思います。さて、その「健康」、バロメーターは医療費の多寡となりますが、町全体の健康状態は一体どういう状態かと言いますと：結論は「残念!」です。町の国民健康保険特別会計のデータでは、一人当たり医療費は年々増加。その結果、国民健康保険税も増額傾向。さらに、一般会計からの繰出金も増額で、しかもその金額が億単位で半端な額ではないときています。

心身も財政も、健康のために取り組むべきことは明確です。高い健康意識を持つこと、軽度の不調も含め心身を整える自己管理を実践すること、早期発見・治療のために健康診断を受診することなど。町ではそれらを一層推進していくため、現在「セルフケア推進方針」を作成中です。またより次第ご提示しますので、みなさんでがんばっていきましょう。左党の方々、セルフケアを「百薬の長」に頼ろうなんて不埒な考えは、決してなりませんよ。